



5. 北海道俱知安町

対象地域	北海道虻田郡倶知安町・ニセコ町 ニセコエリア			
申請主体	(一社) 倶知安観光協会			
計画名	ニセコモデル二次交通プロジェクト			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	4,028	3,209	3,504
	訪日外国人旅行者延泊数(千人泊)	552	492	739
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 国際的なスキーリゾートであり、ピークシーズンには多くの訪日外国人旅行者で賑わい、近隣宿泊施設は常に満室となる さらに、シーズナルスタッフとしてニセコエリアで働く外国人も増加している(通勤による渋滞が顕著になっている) スキー場へは徒歩で向かうことが難しい宿泊施設が多く、エリア内は車やタクシーでの移動が基本となっている 現在北海道新幹線の延線工事が進められており、倶知安駅に新幹線が開通すれば、駅からニセコエリアへの二次交通の強化が必須となる 			
協議体制	協議の場			
	観光地経営会議			
	<ul style="list-style-type: none"> 行政、地域DMO、地域団体、町内の主要企業や主要施設の代表を務める当協会の理事らが集まり、マスタープランに沿って町内の観光業について幅広い議題で議論する。 			
	参加者			
	行政機関等	事業者		
	<ul style="list-style-type: none"> 倶知安町総合政策課 ニセコ町企画環境課 	<ul style="list-style-type: none"> 倶知安観光協会 四辻自動車株式会社 ヤマト運輸株式会社 Go株式会社 ニセコ観光圏協議会 		
	住民関係者			
	<ul style="list-style-type: none"> 一般住民 			


エリアマップ



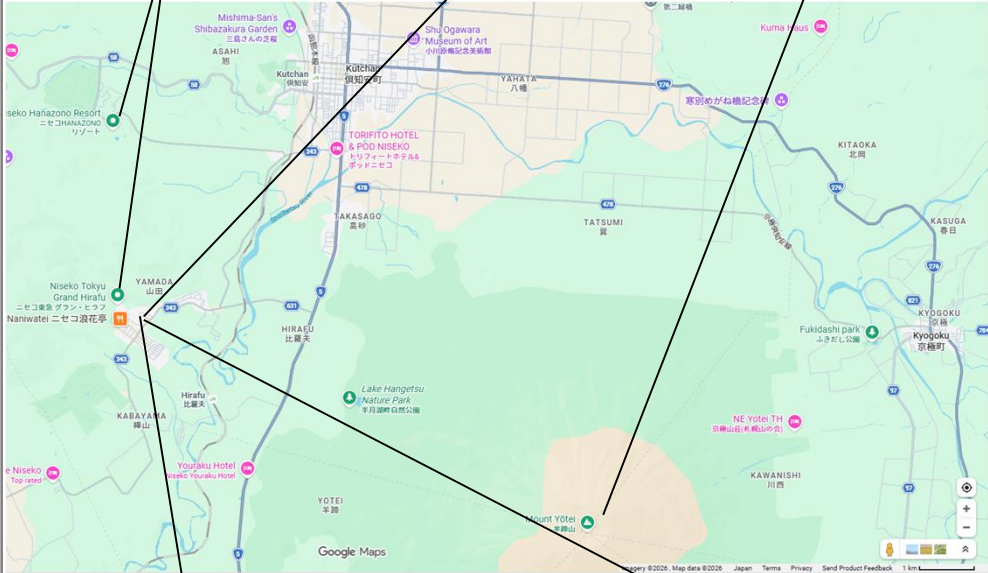
世界中からパウダースノーを求めてスノースポーツ愛好家が訪れる2つのスキー場




世界各国のゲストを迎え入れる数多く的高级宿泊施設




日本百名山にも名を連ねる羊蹄山





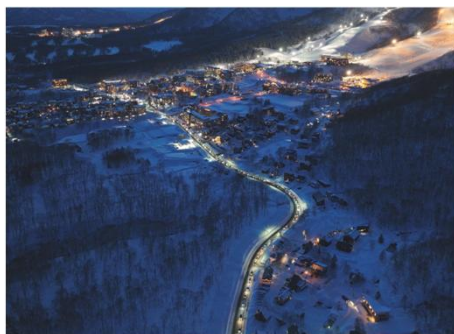
スキー客で賑わうスキー場



駐車場が不足しており、路上駐車が見られる

主な現状・問題点		影響を受けている主な対象
1.	<p>交通渋滞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倶知安町市街地に住居があり、スキーリゾートエリアであるひらふエリア周辺に職場がある住民がほとんどを占めており、朝および夕方の通勤時の交通渋滞が深刻な問題となっている。 ・ また、市街地からひらふエリアへの道路は国道5号線の1つしかなく、5号線は隣接する地域とを結ぶ主要な道路であるため、その影響は近隣市町村にも及んでいる ・ さらに、交通渋滞により、緊急車両の交通にも支障が出ており、緊急搬送の遅れに繋がっている。 	住民
2.	<p>駐車場不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひらふエリアでは駐車場の不足が深刻な問題となっており、観光客だけではなく各事業者の従業員の駐車場も足りていない現状である。 ・ 違法駐車や路上駐車等によるトラブルも発生しており、大きな事故に繋がる恐れがある。 	住民・地域事業者
3.	<p>タクシー不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季・冬季で繁閑差の大きいニセコエリアでは年間を通しての地元交通事業者の雇用が難しくなっている。そのため、多くの観光客が訪れる冬季にはタクシーが不足し、観光客の利便性や満足度の低下につながってしまっている。 ・ また、リゾートエリアにタクシーが取られてしまうため、通院や買い物にタクシーを利用する住民（特に高齢者）の死活問題となっている。 	住民・観光客

1 交通渋滞



市街地とリゾートエリアを繋ぐ道路の混雑状況
(夕方)

2 交通渋滞



市街地とリゾートエリアを繋ぐ道路の混雑状況
(朝)

3 タクシー不足



タクシー待ちをする長蛇の列

主な背景・要因

1. 季節による繁閑ギャップと訪日外国人旅行者の急増

- 数十年前よりJapowと評されるほどの良質な雪を求め、世界中から倶知安・ニセコエリアにスノースポーツ愛好家が訪れようになったが、コロナ禍の終了と共に訪日外国人旅行者が急増した
- 近年では特に、これまでの欧米人中心の客層から、東南アジアからの訪日外国人旅行者がスキー人気の高まりとあわせて、冬季を中心に観光客数が増加している。これにより、従来の交通インフラやサービスでは需要に対応しきれない状況が発生している

2. 公共交通機関の利便性

- 広域にわたるリゾートエリアが広がる地域において、鉄道やバスなどの公共交通機関の本数や路線網が十分に整備されていない
- 従って、観光客や地元住民の多くが自家用車やレンタカー、タクシーに依存せざるを得ない状況が発生している



市街地とリゾートエリアを繋ぐ道路の混雑状況
スキー場へ続く道は1つしかなく、多くの車で渋滞が発生している



スキー場エリアにおけるバス待ちの様子
大きな荷物を抱えた観光客がバス待ちの行列を作っている

4. 対策の概要

目指す姿

地域住民が国際的スキーリゾートである地元に誇りを持ち、かつ、オーバーツーリズムによって生じる負荷を渋滞緩和や乗り入れ車両減により国際リゾートに相応しい交通体系を実現することで、滞在期間中の満足度と利便性を向上させ、移動のストレスを減らすことで更なる周遊を促し、経済活性及び滞在期間の延長に繋げるなど、持続可能な観光地域づくりを目指していく。また、地域住民自らがJapowの雪文化に親しみ、その結果地域住民が観光客にとって生涯忘れられない体験価値を提供する

KGI

(指標) ①住民満足度 / ②来訪者満足度

目標値：①55.0% (令和7年度)、②90.0% (令和7年度) | 実績値：①67.8% (令和6年度)、②95.4% (令和6年度)

■ 補助事業の実施概要

需要の適切な管理

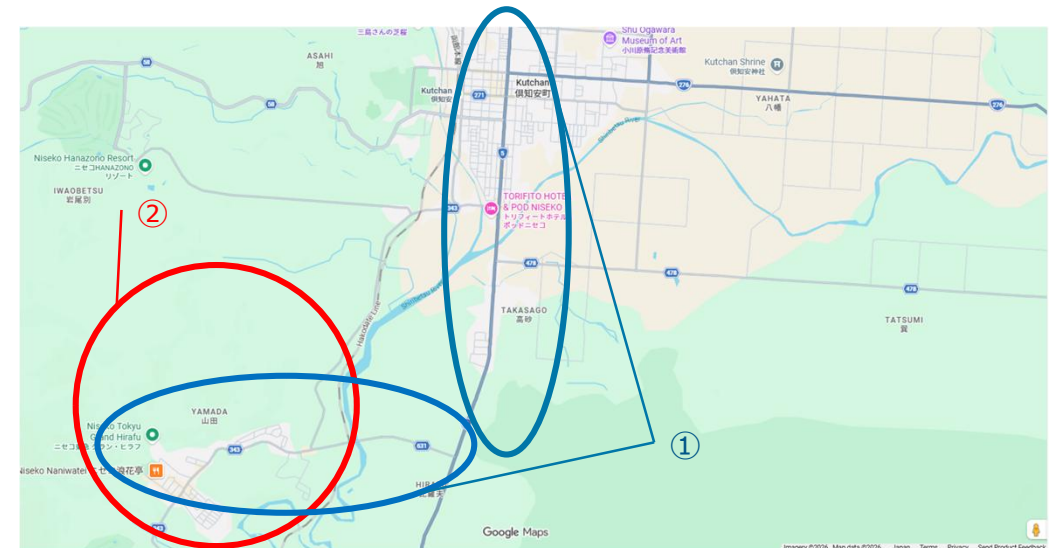
① 交通渋滞および駐車場不足解消のための従業員輸送の取組 (パークアンドバスライド)

- スキーリゾートエリアであるひらふエリア周辺に出勤する住民が多く、朝および夕方の通勤時は主要幹線道路の交通渋滞が深刻な問題となっており、隣接地域にも大きな影響を及ぼしている。
- 市街地からリゾートエリアまで通勤する従業員に向けて、毎日6便ずつ、市街地からリゾートエリアを運行する「パークアンドバスライド」を実施することで通勤車両を減らす。
- 乗客の自家用車を停車するフリンジ駐車場をより市街地に近く、かつ、主要道路である国道5号線沿線に設けることにより、利便性を上げ、利用客の増加に貢献する。



左：フリンジ駐車場の様子

右：パークアンドバスライド運行の様子



①パークアンドバスライドの取組に係る様子

受入環境の整備・増強

② ニセコエリアにおけるタクシー不足改善対策事業 (ニセコモデル)

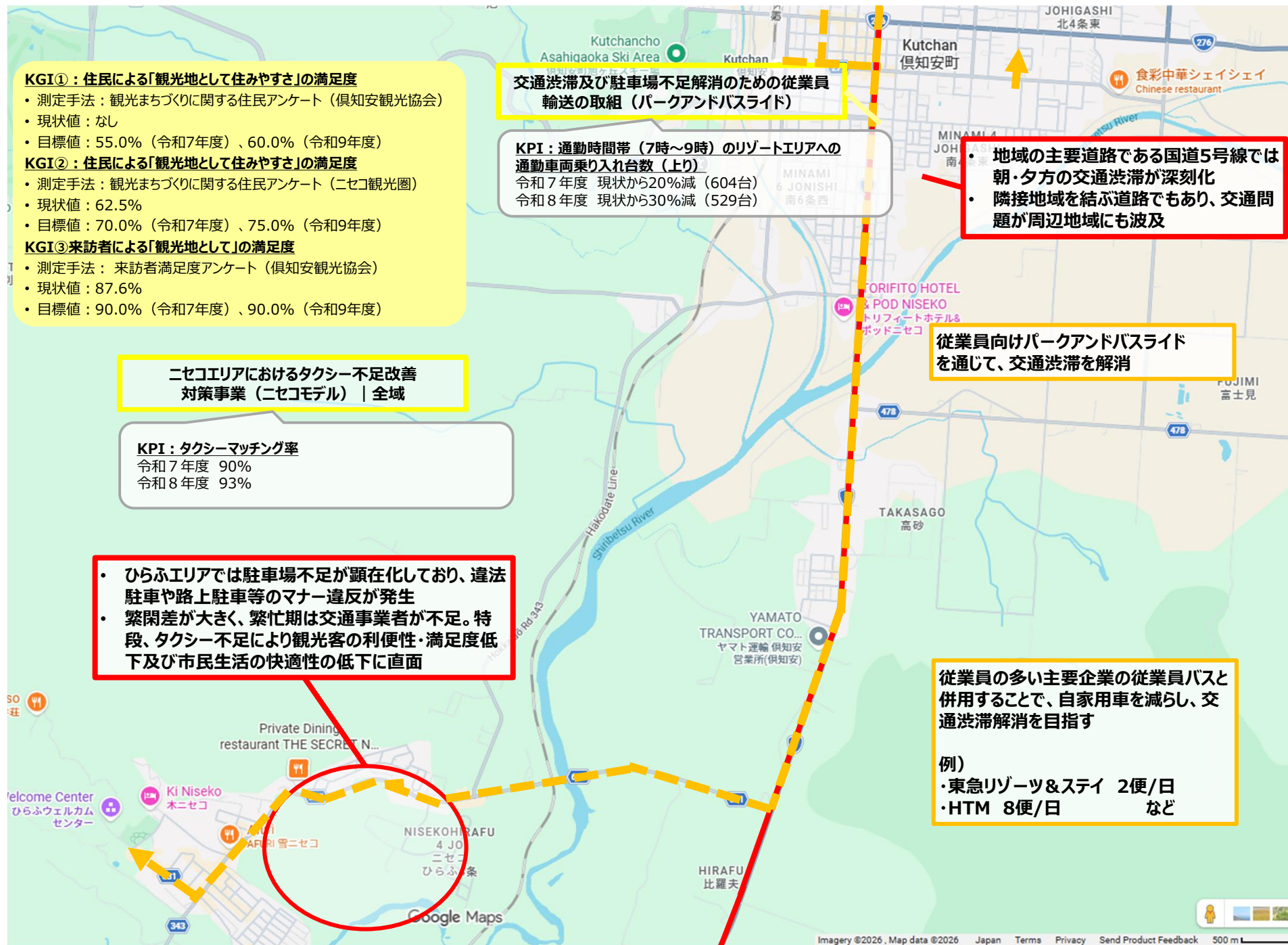
- 繁忙期の冬季にはタクシーが不足し、観光客の利便性及び満足度の低下に繋がっているとともに、リゾートエリアにタクシーが集中し、地域住民 (特に高齢者) の生活に影響が生じている。
- ニセコエリア限定でタクシーの営業区域外旅客運送と遠隔点呼の仕組みを活用し、他営業圏のタクシー事業者から応援隊派遣を行うことで、ニセコエリア内の発着となるタクシーアプリ『GO』の注文のみで営業を実施し供給力強化を図る。
- タクシーアプリ『GO』の導入メリットとしては、①運行エリアを縛ることができること、②利用者の詳細なデータを取得できることの2点があげられる。



東京や札幌、青森から応援車両と運転手を派遣。地元車両の配車アプリ搭載も進んでいる



②令和7年度のニセコモデルの様子



需要の適切な管理

補助事業①	交通渋滞および駐車場不足解消のための従業員輸送の取組（パークアンドバスライド）		
事業目的	スノーリゾートエリアで勤務する従業員の通勤車両を削減し、交通渋滞および駐車場不足を解消する		
実施主体	一般社団法人倶知安観光協会	実施期間	令和7年10月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ 倶知安町市街地に住居があり、スキーリゾートエリアであるひらふエリア周辺に職場がある住民がほとんどを占めているため、**朝および夕方の通勤時の交通渋滞が発生**している。夏季は**15分の通勤時間が冬季は1時間以上**になるとの声もあがっており、住民の日常生活を脅かす深刻な問題となっている。また、市街地からひらふエリアへの道路は国道5号線の1つしかなく、5号線は隣接する地域とを結ぶ主要な道路であるため、その影響は近隣市町村にも及んでいる。
- ・ また、ひらふエリアでは駐車場不足も深刻な問題となっている。観光客に加え、1シーズンあたり約3,000人のシーズンワーカーが流入するため、各事業者の**従業員用駐車場も不足**している状況である。違法駐車や路上駐車等によるトラブルも発生しており、大きな事故に繋がる恐れがある。
- ・ 上記2点の問題を解消するため、市街地からリゾートエリアまで通勤する従業員に向けて「パークアンドバスライド」を実施する。

【事業内容】

- ・ 市街地からリゾートエリアまで通勤する従業員に向けて毎日6便ずつ、市街地からリゾートエリアを運行する「パークアンドバスライド」を実施する。

【推進ポイント】

- ・ 前年度の取組では、パークアンドバスライドの取組の肝となるスノーリゾートエリアへの車の流入を抑制するために市街地の周辺部に設置されたフリンジ駐車場が市街地から離れていたため、利用者が限定的であったことが課題に挙げられたため、今回の取組では**フリンジ駐車場をより市街地に近く、かつ、主要道路である国道5号線沿線に設ける**ことにより、利便性を上げ、利用客の増加を図る。
- ・ さらに、市街地からの車通勤者を見込み、市街地の主要施設（役場や駅など）に停留所を設けることで、フリンジ駐車場を利用しない従業員の利用向上も目指す。
- ・ フリンジ駐車場の利用促進にあたっては、（一社）倶知安観光協会内の会議体に加えて、観光地経営会議やひらふ渋滞対策会議の会議体や当協会SNS等でのプロモーションにも注力し、従業員への認知向上及び利用意欲の醸成を図っていく。
- ・ なお、観光地経営会議は倶知安町や（一社）倶知安観光協会の業務執行理事、ニセコひらふエリアマネジメント、索道会社を包括している。また、ひらふ渋滞対策会議は警察、消防、救急、後志総合振興局等も包括しており、ひらふエリア周辺を勤務地とする企業やその他重要ステークホルダーを的確に巻き込みながらプロモーションを推進する。

補助事業①

交通渋滞および駐車場不足解消のための従業員輸送の取組（パークアンドバスライド）

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名 通勤時間帯のリゾートエリアへの通勤車両乗り入れ台数

令和7年度に掲げた目標値

- 目標値：604台（令和7年度）
483台（令和8年度） ※通勤時間帯である7時～9時の交通量

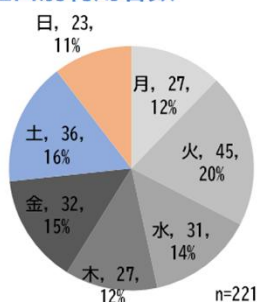
事業の成果/目標の検証結果

- 989台（令和7年度） ※通勤時間帯である7時～9時の交通量

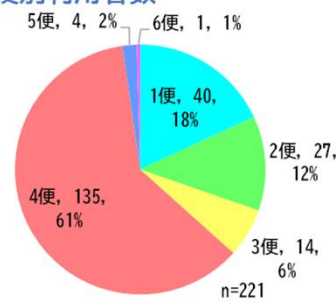
成果の詳細

- パークアンドバスライドシャトルバスの延べ利用者数は、221件であり、最も利用が多かった日は、2月17日（火）の15件であった。
- 便別では当初想定において従業員の通勤時間帯と主たる範囲と重複し混雑が予想されたため予約が必要な「第4便」の利用が多く、約6割となっている。
- 乗車場所は「スーパーラッキー」が108件、降車場所は「ひらふウェルカムセンター」が170件で最も多くなっている。FRINGE駐車場を設置したヤマト運輸倶知安営業所は、15件となった。

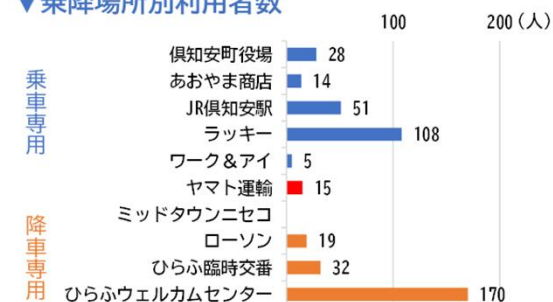
▼曜日別利用者数



▼便別利用者数



▼乗降場所別利用者数



令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 地域事業者との役割分担の明確化

- 同エリア内の事業者も従業員送迎用の専用バスを運行していたため、当初想定よりもパークアンドバスライドの効果が低かった。

令和8年度以降の方針

1 早期からの地域事業者向け情報発信

- 令和7年度はパークアンドバスライドの仕様が固まるまでに一定期間を要したため、情報発信が遅れてしまった。令和8年度は夏季より地域事業者とのすり合わせを開始し、可能な限り早い段階で地域事業者及び従業員向けの情報発信を図る。

2 ニーズに即した運行時間の設定

- パークアンドバスライドとしての利用より、市街地からのバス利用が圧倒的に多かったため、令和8年度以降もバス利用を見込んだ停留所を設定する。
- 4便の利用が最も多かったことから、遅い時間帯の運行を検討する。

補助事業②

ニセコエリアにおけるタクシー不足改善対策事業（ニセコモデル）

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名 タクシーマッチング率

令和7年度に掲げた目標値

- 目標値：90.0%

事業の成果/目標の検証結果

- 実績値：84.8%（令和7年12月16日～令和8年2月5日、前年同時期83.0%）

成果の詳細

【令和7年度の取組】（※令和7年12/16～令和8年2/5の期間）

- 令和6年度は東京や札幌、青森から運転手45名、車両20台の応援と、地元事業者25台が参加してニセコエリアにおけるタクシー不足改善対策事業を実施したが、令和7年度は令和6年度よりも少し規模を拡大し、東京や札幌、青森から運転手45名、車両20台の応援と、地元事業者27台に加えて隣接事業者からも7台の応援があった。

【令和7年度の成果】

- 配車依頼数・実車数については、12月の少雪傾向や一部地域からの旅行者減少による影響が懸念されたが、配車依頼数45,162件（前年同時期44,360件）、実車数32,449件（前年同時期32,041件）を記録した。
- 令和6年度実績から、クリスマス時期及び春節時期に配車需要が供給を上回る動きが見られており、令和7年度も事業開始した12/16から1/10の間で需要が増加し、1日1,200件を超える配車依頼数を記録（前年度最高配車依頼数809件/日）した。
- 配車依頼が増加したが車両供給台数の増加もあり、前年度課題であった繁忙期の需要に対応することが可能となった。
- マッチング率は84.8%（前年同時期83.0%）となり、繁忙期となったクリスマス～1月2週には82.4%（前年同時期79.4%）と8割以上の水準を維持できた。3月までに比率向上が期待される。
- 昨年同様に外国人利用が多い（実車件数の内88%）が、1日平均12件程度の地元住民利用もあり「地元の足」としての機能も果たしている。
- 乗車ポイントを見るとスキー場周辺と倶知安駅近辺での利用が多く、傾向として前年度と同様の動きを示している。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 交通事業者の安全管理及び離脱防止

- 年末年始に降雪が増加したため車両事故・故障が発生し、離脱する時期があった。修理のため札幌に戻る事例もあり、離脱が長期化するパターンも見られた。

2 ニーズに即した最適なタクシー台数の設定

- 令和6年度実績から見られたクリスマスから春節の期間に迎える最初の配車ピークにおいて、今回から導入した隣接事業者からの応援車両が車両供給の底支えに繋がったが応援隊宿泊施設数に限りがあること、地元事業者との共存が必要であることから応援車両の適正台数、増加には協議が必要である。

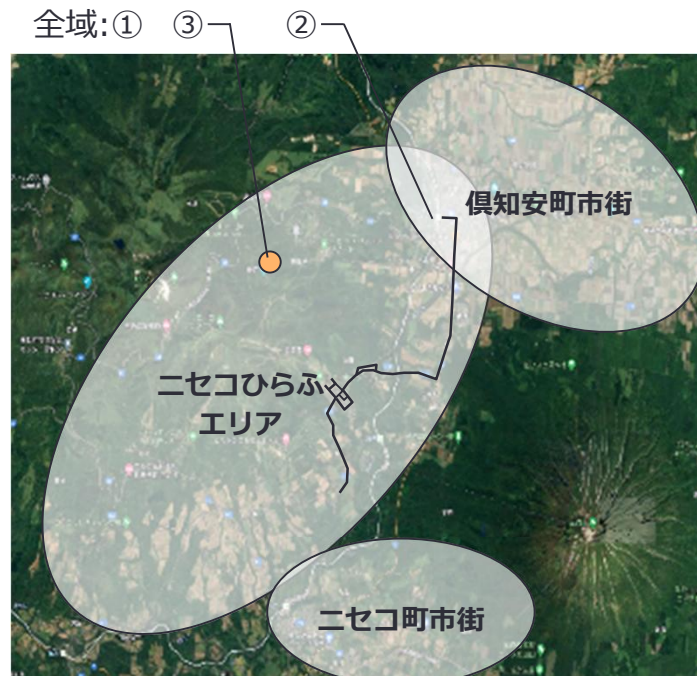
令和8年度以降の方針

1 地域事業者との更なる連携の促進及び緊急時の対応の明確化

- 「ニセコモデル」が一定程度周知され、需要規模も見えてきており、応援車両と地元車両、隣接事業者のバランスをとった運用を進める。
- 事故・故障の発生は避けられないが、事前回避・予防策や発生後の対応などを関係者協議のうえ整理していく。

4. 対策の概要

- 当エリアでは二次交通不足の課題が顕在化しており、令和5年度より実施中のニセコモデル(域外タクシー事業者の協力を得た増強)と併せて、大型輸送力をもったバス事業の増強・再整理により、公共交通ネットワークの最適化を図る
- 訪日外国人旅行者が多いという地域特性から、タクシー事業については、アプリを使用して予約する形をとることで、対応を簡素化。また、バス事業については、海外のスキーリゾートにならい無料シャトルバス運行を目指し、運行経路ならびダイヤ等の最適化を図る
- 上記交通事業とあわせ、マナー違反対策にも着手し、観光地としての質の向上を目指す



受入環境の整備・増強

取組み

① 冬季のタクシー不足解消（ニセコモデル）

背景

- 冬季に観光客が集中しニセコ圏内においてタクシー不足が生じ、観光客の利便性・満足度の低下や、住民が通院や買い物等の日常利用ができないといった社会問題が発生している

内容

- ニセコ観光圏協議会・倶知安町・ニセコ町・北海道ハイヤー協会・GO株式会社と連携し、2024年12月から2025年3月まで、札幌等の事業者から車両及びタクシー乗務員をニセコエリアへ派遣・運行する

取組み

② ひらふ無料シャトルバス運行（循環バス&ナイト号統合・再編・強化）

背景

- 観光客の移動において、ゲレンデ・宿泊施設・市街地が主たる動線となるが、二次交通不足からマイカー・レンタカー移動が集中し、交通渋滞が発生

内容

- 倶知安観光協会で運行しているニセコひらふ無料循環バス（4系統）とくっちゃんナイト号（1系統）を統合しワンブランドで5系統の運行とする。
- 統合に伴いダイヤを再編し、ニセコひらふ無料循環バスの一部系統での運行頻度増強とナイト号との接続強化、ナイト号の運行頻度増強と無料化により利便性向上を図る。特にナイト号は、無料化と本数増によりリゾートエリアであるニセコひらふ地区から倶知安町市街地のアクセスを強化し、マイカー利用低減による交通混雑抑制と市街地飲食店利用による夕食難民対策を行う

取組み

③ スマートごみ箱設置事業

背景

- バスやタクシー停留所等、観光客が滞留する場所では、交通渋滞等から待ち時間が増加し、その間にごみのポイ捨て等が発生し、町の景観を損ねており、住民からも不満の声が寄せられていた

内容

- かつてテロ対策でごみ箱の撤去が進められていたが、リゾートとしての質を高めるため、スマートごみ箱を設置、広場や通りの美化、観光客の環境保全の意識啓発を図る

5-①. 主な取組み（詳細）

課題

冬季に観光客が集中することで、ニセコ圏内でタクシー不足が発生

取組み

冬季のタクシー不足解消（ニセコモデル）

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年2月(3月迄運行)
- ・ 実施主体：一般社団法人北海道ハイヤー協会、倶知安町、ニセコ町、GO株式会社

事業内容

■ ニセコモデル

- ・ **冬季期間・繁忙期の、広域でのタクシーの需給調整事業**（札幌等の事業者から車両及びタクシー乗務員をニセコエリアへ派遣・運行）
 - 期間：2024年12月から2025年3月まで
 - 関係者：ニセコ観光圏協議会・倶知安町・ニセコ町・北海道ハイヤー協会・GO株式会社と連携
 - 規模：12社20台45名の応援隊協力、4社25台の地元事業者協力
- ・ **雪道運転での事前講習の実施**
 - 派遣された地域に不慣れなドライバーに対して雪道運転での事前講習等を実施。ドライバーの運転スキル向上について対応
- ・ **マッチングの仕組みの導入**
 - GOアプリでの予約を必須として、予約時点で観光客か地元住民か等利用者属性情報を習得し、それら情報をもとに、ドライバーをマッチングする仕組みを導入。例えば、訪日外国人旅行者（英語対応が必要）な場合は地元事業者等対応に慣れた事業者が対応を行う

事業周知



出発式



出発式テープカット



5-①. 最終成果

令和6年度事業の目標

- ・ 来訪者満足度の向上
- ・ ニセコ観光圏協議会で冬期・夏期に実施している「来訪者満足度調査」における、「来訪者満足度」の項目数値の上昇を目指す

事業の成果／目標の検証結果

- ・ 来訪者満足度目標値：93%達成見込み
※本事業期間をカバーする満足度調査の結果は令和7年6月に集計予定。
- ・ 取組みに係る実績値：
「ニセコモデル」利用件数：2万件(令和6年度) → 5.5万件(5年度)
待ち時間：平均11.9分(令和6年度) → 平均8分(5年度)

成果詳細

ニセコモデルにおけるタクシーの稼働状況

ニセコモデル運行状況（概数：令和6年度数値3月16日時点）			
	令和6年度	5年度累計	備考
実車数	54,695件	20,000件	地元事業者を含む数
稼働台数/日	最大45台	最大11台 ※応援隊のみ	地元事業者を含む数

ニセコモデル運行体制（域内車輛含む：運行開始12/16～）			
	6年度総数	内応援隊	5年度総数
運行者数	16社	12社	8社
タクシー台数	45台	20台	11台
登録運転手数	105名	45名	25名

約2倍の運行体制を構築

- ・ 令和6年度より、道外からの応援車以外（域内タクシー）にもGOアプリを実装し運行することで、よりスムーズな配車や決済を実現
- ・ 通常運賃・アプリ手配料に加え、地域交通振興料1,180円を徴収し、一部を協力会社に拠出することで持続的な運行体制を構築

利用者満足度

【利用実績】

- ・ 開始1ヶ月時点で17,938件と、前年同期間比2.9倍のペースで乗車利用があった
- ・ 迎車～乗車時間が平均8分と、5年度に比べて平均3.9分短縮されたなど効率化が実現しており、結果的に大晦日には過去最高となる758件の乗車があった
- ・ 利用者の87%が訪日外国人旅行者となっており、5年度の1.2倍となる65の国と地域の利用が見られている

【2月9日までの利用者を対象とした乗車体験アンケート結果】

- ・ 「良い」約80% ・「悪い」約2% ・「評価無し」約18%
- ⇒全体的に良い評価をいただいている

- ・ 訪日客の利用が多いが、地元住民利用も見られる
- ・ 車輛数の増加により、迎車～乗車時間の短縮に繋がったことで、キャンセル数の減少も見られる
- ・ 利用者からの評価は高く、エリアの足として認知されはじめている

5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度の取組みから見えてきた課題

- ・ ニセコエリア全域の観光客は増加傾向。令和6年度タクシー台数・人員の増強を行ったが、配車の依頼数も増加しており、適切な運行を実施
- ・ 道外からの派遣ドライバー受入のため、令和6年度は民間の宿泊施設を利用。5年度以上に快適な受入環境を整備を行った
- ・ 上記により、体制強化が図れた反面、新たな課題が可視化された

1 ドライバー不足への対応

- ・ 令和5年度実績から、観光客のタクシー利用ニーズは非常に高く、台数不足が発生していたため、5年度より約2倍の応援体制を実現したが、更なる運用体制の検討が必要ともいえる状況である

2 利用者満足度の向上

- ・ 域内事業者もGOアプリを使用し、ナビルートを用いることで、効率的な運行が実現できた
- ・ 一方で、交通事故等日々変動する要因におけるルート変更等に対し、利用者への丁寧な説明が求められる

3 派遣ドライバーへの施設利用方法周知

- ・ 今期、道外からの派遣ドライバーが長期滞在するための拠点として、民間の宿泊施設の利用を実施
- ・ 宿泊施設ごとに利用ルール等が異なることから、滞在者に対する利用方法の事前周知を丁寧にする必要がある

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 5年度に開始したニセコモデルを増強することで、高い利用率や高い満足度を得ることができた。そのためニセコモデルの持続性確保にむけて運行体制の強化に向けて、ハード・ソフト両面での運用体制強化を図る
- ・ 他方、タクシー増強は有効な施策でありながらも、台数を増やしすぎると、交通渋滞に繋がる可能性もあることから、台数上限等の見定め等を今後進めていく

1 域外事業者との継続的な協力体制の構築

- ・ 観光客数や利用者ニーズ等を踏まえ、今後も継続的なタクシーの運行体制の増強が必要であるが、当面は地元事業者だけでは台数・ドライバー共に不足することから、継続的な関係構築が不可欠。また台数の見極めも重要

2 タクシー運行にかかる教育プログラムの拡充

- ・ 渋滞発生時や事故発生時等に、乗客に対するルート変更やそれに伴う料金への影響等の説明方法の作成
- ・ 乗務員に対するニセコモデルの運用ルールの徹底

3 宿泊等協力事業者との継続的な協議の実施

- ・ 今後も継続的に域外からの事業者を受入る場合、それら関係者が快適に過ごせる体制構築が不可欠
- ・ 宿泊事業者と協議し、滞在者向けの利用案内やマニュアルなどを整備する

5-②. 主な取組み（詳細）

問題

- ・多くの観光客が自家用車（レンタカー）やタクシーで移動することにより、交通渋滞が発生
- ・長期滞在する訪日客が、夕方・夜間に飲食のため移動する際の交通手段が不足し、いわゆる「夕食難民」も発生

対策事業

ひらふ無料循環バス運行

- ・実施期間：令和6年12月～令和7年2月
- ・実施主体：（一社）倶知安観光協会

事業内容

■ ひらふ無料循環バス・くっちゃんナイト号の運行

- ・訪日外国人旅行者増加の現況を鑑み、バス事業について、ルート・ダイヤ変更・無料化により抜本的な再編を行う

【背景】

・〈ひらふ無料循環バス〉

2021年度、スキー場まで徒歩移動が困難な宿泊施設とスキー場間をつなぎ、マイカーやレンタカーでの来場を抑制する目的で導入。導入以降利用者は増加し、**2023年度は当初の12倍の乗車人数となりニーズが非常に高まっており、増強が急務となっている。**

・〈くっちゃんナイト号〉

平成5年に日本人スキー客の市街地飲食店への誘客を目的に運行開始。有料運行であったが、近年では訪日外国人旅行者の利用が増加。**訪日客にとっては小銭での支払いが難しいことから、遅延やバス停での長時間滞留が生じ、むしろ道路混雑を悪化させかねない状況にある。**

- ・近年はニセコひらふ地区のベッド数が飲食店席数を大幅に超過する状況に至り、**夕食場所を見つけるのが難しい来訪者が多く発生。倶知安町市街地に所在する飲食店を活用するニーズも高まっている。**

【目的】

- ・先進的なスキーリゾートを目指すと共に、マイカー・レンタカー渋滞の緩和や市街地飲食店の活用拡大によるいわゆる夕食難民の減少を目指す。

2024-25運行マップ



ひらふ無料循環バス



5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- A : バスの利用者の増加
- B : 来訪者満足度の向上
- C : 来訪者満足度（食事・飲食店）

<B、Cの評価方法>

ニセコ観光圏協議会で冬期・夏期に実施している「来訪者満足度調査」における、「来訪者満足度」「食事・飲食店」の項目数値の上昇を目指す

事業の成果／目標の検証結果

- A : バス利用者の増加（目標達成）
バス利用者：76,528人→87,770人
- B : 来訪者満足度：93%
※本事業期間をカバーする満足度調査の結果は6月に集計予定。
- C : 食事・飲食店（大変満足スコア）：24.0Pt（達成見込み）
食事・飲食店：21.7Pt⇒24.0Pt

成果詳細

無料シャトルバスの稼働状況

シャトルバス運行状況（令和6年度数値）

ルート	乗客数	備考
①HIRAFY EAST LINE	19,738名	
②KABAYAMA LINE	12,966名	
③MIDDLE LINE	29,676名	運行上の都合により一括して集計
④LOWER LINE		
⑤DOWNTOWN LINE	25,390名	

- ルート・ダイヤ再編、認知度向上における工夫点
 - ・ ⑤DOWNTOWN LINEは、くっちゃんナイト号をブランド統合・再編。
 - ・ バス車両イメージも統一し認知度向上に寄与
 - ・ 再編したDOWNTOWN LINEは、無料化し市街地飲食店へ送客することで、夕食難民対策としても貢献
 - ・ ひらふ坂のデジタルサイネージも活用して認知度向上を図っている

- ・ 特にDOWNTOWN LINEは、利用ニーズが極めて高く、乗車定員を超えるような状況も発生したため、増車対応をしている
- ・ 無料化により気軽な利用を促すとともに、訪日客が不慣れな小銭支払に手間取ることでバス停で長時間停車することも防止し、渋滞対策にも貢献

利用者・事業者の反響

【利用者の声】

- ・ リゾートの循環バスは無くてはならないインフラです。
- ・ 運転手の休憩が必要なのは分かるが、切れ目ないダイヤで運行してほしい（利用のニーズが高いことを示す要望）

【地元事業者の声】

- ・ 循環シャトルがあるので、個社で送迎をしなくてもよくなった。結果的にリゾート内を走る車両の低減に繋がっていると思います。
- ・ DOWN TOWN LINEの利用が多く、満車になることが多いので、翌年度の車両大型化や頻度増などの運行強化を希望します。

- ・ 2024-25シーズンは、倶知安町市街地の空き店舗を活用した飲食店の新規出店が相次いだ。利用が盛況な「DOWN TOWN LINE」が、新規出店にも後押し要因となっているとも言え、飲食店の供給も相まっていわゆる夕食難民対策につながった

5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 従来の無料シャトルバスの増強・再編により、特に無料化したDOWN TOWN LINEで期待を上回るバス利用につながっている。
- 一方で、バス事業については、やむを得ない運転手の欠員等も発生し、体制の見直しが必要となる場面も生じている

1 ドライバー不足への対応

- ルート統合・再編、一部増便を実施しても足りないほど利用ニーズが大きく、現状でも便数が不足している状況
- 今シーズンもやむを得ないドライバーの欠員により、一部ルートを統合する期間が生じてしまっている
- 一方で、運送業界全体でドライバー不足が顕著であり、運行体制増強には限界がある

2 市街地飲食店の増加に伴う移動ニーズへの対応

- 近年市街地の飲食店などが増加しており、その結果バスの利用者も増加するという相乗効果が生まれていると思われる。また、今後もその傾向が続くと想定される
- 日本では、空き店舗やシャッター街が課題になることが多いが、倶知安町では閉店した菓子店や本屋が飲食店として利活用され、観光客増加の効果が地域全体に波及

3 従業員の通勤による混雑への対応

- 交通混雑の大きな要因として従業員による市街地からの通勤が挙げられる
- 今シーズンは、従業員によるDOWN TOWN LINEの利用が確認され、結果的に観光客が乗れない事態も発生
- 一方で道内の路線バスは運転手不足から減少が続いており、通勤向けの路線バス増加を期待することは難しい

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ドライバーの確保が事業継続に直結するため、ドライバーの雇用方法等から検討を進めていく必要がある
- 当事業の他にも、通勤者の対応等別の交通政策もあることから、多面的に事業を評価し、継続的に公共交通ネットワークの構築を図っていく

1 ドライバーの通年雇用

- ウィンターシーズンなどのみの季節労働では、ドライバー確保が難しいことから、夏に利用者が少なくとも、通年で運行を図る等してドライバーの確保が必要

2 定期的なルートやダイヤの見直し

- 今後も訪日客需要の高まりから、宿泊施設や飲食等観光関連施設の増加も見込まれる。そのため、町全体での受入体制を鑑み、ルート・ダイヤの見直しを行っていく

3 通勤向けバスなどの検討

- 通勤向けの路線バス増加が難しいことから、無料循環バス開始前の回送を活用した通勤向けバスやパーク&バスライドの推進を検討する必要